

2024年度北海道大学情報基盤センター萌芽型共同研究成果報告書

1. 研究類型 B) 研究集会開催支援型

2. 研究課題名 適切なライセンスや利用に留意した生成 AI の教育利用

3. 研究期間 2024 年 5 月 22 日 ～ 2025 年 3 月 31 日

4. 研究代表者

氏 名	所属機関・部局名	職 名	備 考
新谷 洋介	金沢星稜大学・人間科学部	教授	

5. 研究分担者

氏 名	所属機関・部局名	職 名	備 考
田邊 鉄	北海道大学 情報基盤センター	准教授	
笹岡 久行	旭川工業高等専門学校・電気情報工学科	教授	

6. 共同研究の成果

(1) 研究の目的

研究代表者は北海道の教員から構成される任意団体（北海道特別支援教育 ICT 活用 PJ）において平成 20 年度から継続して研究会を開催し道内外の専門家とも交流がある。そして、昨年度は、情報モラル教育における教材や実践を紹介する研修会を開催した（北海道大学情報基盤センター萌芽型共同 2023）。

「GIGA スクール構想」が施行され教育現場では一人一台の ICT 環境が実現された。そして、生成 AI のサービスが開始され、教育においても先進的な利用がされ始めている。また、文部科学省から、「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」が出され、生成 AI サービス上の年齢制限や機械学習を留意することが述べられている。

そこで、本研究では、生成 AI サービスが開発途上であり文部科学省からのガイドラインも暫定的なものである現状において教育上における生成 AI の活用実践が創出されていることを踏まえ、生成 AI サービス提供企業や生成 AI の使用ルール等を策定し学校において活用できるようにしている自治体等からの情報や実践事例を得て、適切なライセンスや利用に留意した生成 AI の教育利用に関する研修会を開催し、情報普及をすることを目的とした。

(2) 研究計画・方法

本研究では、「適切なライセンスや利用に留意した生成 AI の教育利用」を課題として、特に、「適切なライセンス」に着目した。そこで、研究集会における内容や講師選定において、生成 AI の実践をしていることにとどまらず、ライセンスや、生成 AI 使用ルールを適切に利用している実践を意識し選定した。

(3) 成果

「生成 AI の教育利用に関する研修会～適切なライセンスや利用に留意した生成 AI の教育利用～」をテーマに、2025 年 2 月 15 日（土）に、北海道大学情報基盤センター南館 2 階 ハイフレックス会議室にて研究集会を実施した。

研究集会では、分担者による、様々な視点からの生成 AI に関する報告を行った。そして、パネルディスカッションでは、「生成 AI 提供企業と共に取り組んだ高等専門学校の事例」、「教育委員会のルールに基づいた小学校の事例」、「生成 AI 提供会社からのライセンス等の説明」をテーマに、報告を行った。また、こ

れまで本研究において開発してきた、チャット疑似体験、動画配信サイトコメント疑似体験ツール等の報告を行った。研究集会を開催したことで、適切なライセンスや利用に留意した生成 AI の教育利用を実践することに繋がる議論をする機会となった。

なお、2024 年度の研究集会同様に、一部の報告はオンデマンド視聴をできるようにしている。



「高専生成 AI 人材育成プロジェクト」

石田 文彦 氏（富山高等専門学校）



「小学校における適切なライセンスや利用に留意した生成 AI の教育利用」

大橋 剛 氏（札幌市立大谷地小学校）